

## 現状分析シート

### 第1節 自然環境 P8~14

#### 1-1 気象

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
<p>○本市の気象は、春から秋にかけては内陸盆地気候となり、冬季は日本海からの季節風の影響によって降雪量が多く、日本でも有数の豪雪地帯となっています。</p>	<p>特になし</p>
<p>○年平均気温は10.5℃、平均湿度は81.25%、年間降水量は1,590mm です。また、最深積雪平均は平地で142cm、山間部では450cm を上回り、1年のうち約3分の1の期間が雪に覆われ、特別豪雪地帯に指定されています。</p>	<p>【事務局】                      (平成22年まで過去5年間の平均データ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均気温 11.5度</li> <li>・年間降水量 1396mm</li> <li>・最深積雪平均 75cm(平地) 250cm(山間地)</li> </ul> <p>35度以上の何日等々、最高気温のデータをH12データは過去5年の平均データなのか？                      不明であるので確認する。次回以降のために減所のデータはその年度の過去5年平均データとする。</p>
<p>○積雪量は市域の南北で大きな差があり、南部は北部に比べると積雪が少なく、両地域の地域格差が生ずる要因となっています。</p>	<p>特になし</p>

1-2 地形

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
<p>○本市は、長野県で最も低い千曲川沖積地に広がる飯山盆地を中心に、東側には三国山脈、西側には関田山脈が連なる南北に細長い地形を呈しています。</p>	<p>特になし</p>
<p>○盆地内には長峰丘陵等が横たわり、また、常盤平、木島の平、外様平と呼ばれる3つの平があります。特に常盤平及び木島の平は、千曲川の氾濫により上流から運ばれた土砂が堆積してできた平野です。</p>	<p>1-4の河川・池沼の中で細部を</p>
<p>○市域の南西部には斑尾高原が、北西部には鍋倉山、東部には長野県の郷土環境保全地域に指定されている小菅山があり、多くの自然資源に恵まれた立地条件を備えています。</p>	<p>【事務局】 ・小菅山の指定は変更なし  信越トレール等の</p>

1-3 植生、自然保護等

(1) 植生

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
<p>○本市は、千曲川沿いに水田や畑や果樹園が広がり、その西側方向には山並みの緑地が連続しています。この山並みの緑地は、ほとんどが二次林と植林によって構成されており、北西部の市境に沿った尾根部に自然植生の分布がみられます。</p>	<p>特になし</p>
<p>○二次林は、本来の自然林に人間の影響が加わることによって形成された森林で、長野県現存植生調査による「ブナ-ミズナラ群落」や「カスミザクラ-コナラ群落」を中心とした植生となっています。この二次林の間に、スギ・ヒノキ・サワラ植林やカラマツ植林が分布しています。</p>	<p><b>【井田委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2004年頃よりナラ枯れの進行</li> <li>・2004年頃よりツキノワグマの出没が顕著になる(特にブナ堅果の不作年)</li> </ul> <p>イノシシ・カモシカ・シカの食害 ハクビシン等々</p> <p>ナラ枯れは、カシノガキクイムシによるもので五東の高橋さんの資料に200年前にあったとのこと</p>
<p>○市の北西部の尾根筋に分布する自然植生は、チシマザサ-ブナ群団の植生となっており、このあたりの地域に本来的に分布する自然の森林といえます。</p>	<p>特になし</p>
<p>○一方、市域を縦断して流れる千曲川の河原には、河川ならではのヤナギ低木群落を中心とした自然植生の分布が見られます。</p>	<p>ヤナギ ニセアカシア…</p>
<p>○本市の山地には、雪国ならではの植物として、早春、残雪の間に美しい真紅の花を咲かせるユキツバキが植生し、昭和49年8月に市の木であるブナとともに、市の花として指定されています。</p>	<p>特になし</p>

(2) 自然保護

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
<p>○本市の小菅山一帯(493.49ha)は、歴史的に特色のある自然環境地域として、長野県自然環境保全条例に基づく郷土環境保全地域の指定を受けています。</p>	<p>郷土環境保全地域指定は小菅のみ</p>
<p>○市の自然保護条例においては、ゴルフ場、別荘団地、スキー場等の開発で、一定の規模を超える行為を行う場合は、市へ届出を行うとともに、自然保護協定の締結を義務づけています。</p>	<p>特になし</p>

(3) 天然記念物

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
<p>○本市には、文化財としての天然記念物が15件指定されており、そのほとんどが巨樹巨木で占めています。</p>	<p><b>【井田委員】</b>                      以下のような物件追加が望ましい。                      ・保全地域指定(例えば、鍋倉山のブナ林、オオルリシジミ繁殖地)                      ・文化的景観(人間活動を含めた植生景観)(例えば柄山地区の民家群と背景の里山植生)</p>
<p>○このうち、黒岩山の約75ha は、ギフチョウとヒメギフチョウの混棲地として国の指定を受けていますが、近年、幼虫の餌であるコシノカンアオイ、カンアオイ、ウスバサイシン等の植物が減少したこともあって、特にヒメギフチョウはほとんどみられなくなっています。</p>	<p><b>【小林和男委員】</b>                      ・環境省レッドデータの絶滅危惧種Ⅰ類に分類されているオオルリシジミの生息  <b>【井田委員】</b>                      以下、新たな天然記念物指定候補物件として要検討(ナベクラザゼンソウ、オオルリシジミ)                       オオルリシジミの観察会過日実施 2頭確認。                      エサのクララが繁殖しているので存在した。</p>

(4) 鳥獣保護

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
○本市には鳥獣保護区として現在、長峰、北竜湖、野々海の3地区が指定されており、北竜湖の湖水面は特別保護地区に指定されています。	特になし
○また、綱切橋から中央橋までの間の千曲川流域48haは、鉛散弾規制区域に指定されています。	【事務局】 ・規制区域指定は変更なし

1-4 河川・湖沼

(1) 河川

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
○市内を縦断する形で、飯山盆地のほぼ中央を南南西から北北東へ千曲川が流れています。千曲川はその源を甲武信岳に発し、長野で犀川と合流し、本市を流下して新潟県で信濃川と名を改めて日本海へ注いでいます。	特になし
○千曲川は、過去何回となく洪水を起こしており、その流路を大きく変えてきました。現在、市内を流れる距離は23,800mとなっています。	洪水関連の経過記載も
○千曲川を挟んで西側には関田山系、東側には三国山系が連なっており、これらの山地から流れ出て千曲川に流入する中小河川が数多くあります。また、湧水や地下水も豊富で、これらの河川水や地下水は農業用水、上水道水として利用されています。	清水については、昔はシジミがたくさんいたのが そういった環境が元に戻るのかどうか。 ホタルの調査なども必要な気が。
○一時期、千曲川の水質汚濁が顕著となったため、千曲川の水を上水道水源や農業用水として利用している本市にとって、上流域と連携した水質浄化対策、新水道水源の確保は大きな課題となりました。	上水道は千曲川水源ではなく、全市清水に。

現状分析シート(第2章第1節「自然環境」)

<p>○千曲川は、本市の景観形成における軸となる存在であることから、良好な河川環境の保全を図ることによって、飯山市らしさを備えた郷土景観や風土の保全・創出に努めていく必要があります。</p>	<p>千曲川の保全については話が出ると思う。堤防の整備計画、景観を配慮しつつのような記述も必要。</p>
---	--

(2) 湖沼

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
<p>○本市には、大小数多くの湖沼がありますが、代表的なものは沼池(斑尾)、桂池、中古池(いずれも黒岩山)、茶屋池(鍋倉)、針湖(長峰丘陵)、北竜湖(瑞穂小菅)です。</p>	<p>沼池⇒希望湖の記述確認要</p>
<p>○本市の湖沼の特徴は、雪解け水を溜め、水田の灌漑用水を供給する機能を果たしている点です。また、標高の高い場所にある湖沼は雪解けが遅くなるため、夏の期間が短く水が暖まりにくい、水深の浅い湖沼はかんがい用水として排水されるため、湖水の大部分が雪解け水や湧水と入れ替わり、水が汚れにくい等の特徴があります。</p>	<p>特になし</p>

1-5 地下水

現行計画記載	計画策定以降の変化、考慮すべき事項等
<p>○飯山盆地は周囲を山で囲まれ、その山地を水源とする多くの河川が流下しているため扇状地となっていることから、地下水に恵まれた地域となっています。本地域には100本近い井戸が分布しており、1日の揚水量は10万m<sup>3</sup>と推定されています。</p>	<p>特になし</p>
<p>○地域がら、地下水の90%以上は、道路等の消雪用に利用にされていますが、消雪用水の利用は冬期間(12月頃～3月頃)に限られています。消雪用水のほかは、水道用水、工業用水等に利用されています。</p>	<p>特になし</p>

現状分析シート(第2章第1節「自然環境」)

<p>○市街地を中心に、冬期間、消雪用としての地下水の汲み上げが集中することによって、地下水位の低下や地盤沈下を招くおそれがあります。</p>	<p>特になし</p>
---	-------------

「第1節 自然環境」で追加した方が良い項目など

<p><b>【井田委員】</b></p> <p>◎追加を要すると思われる項目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・植生に加え、植物相、動物相についても簡単な記述が欲しい。 →希少種等、注目すべき動植物の現状の記載は環境変化の指標となる。</li><li>・耕作地および集落域の動植物相に関する記述 →草刈り等の人為的な管理によって維持される植物(カタクリ等)も多い →近年、外来生物の増殖が著しい(フランスギク、キンケイギク等)</li></ul> <p>◎アレチウリ現状記載、拡大防止対策</p>
--